

佐渡国際トライアスロン、ジュニアトライアスロンに協賛

2015年9月、全国餅工業協同組合は初秋の佐渡島(新潟県)で行われた「佐渡国際トライアスロン大会」と「佐渡ジュニアトライアスロン大会」に協賛。トップアスリートをはじめオリンピックを目指す子供たちまで多くの人々に向けて、お餅のおいしさやカーボローディングについてPRしました。

全国のトップアスリートが佐渡に集結！

新潟県沖の日本海に浮かぶ佐渡島は、美しい海岸線や緑豊かな山地とともに、対馬海流が運ぶ海の幸に恵まれた、まさに絶景と美食を併せ持つ美しい島です。この佐渡島を舞台に行われる「佐渡国際トライアスロン」は、沖縄県の宮古島や鳥取県の皆生と並んで日本を代表するトライアスロンの聖地であり、全国からここを目指して多くのトップアスリート達が集まります。

過酷なレースを乗り切るには「糖質」が肝心！

例年は夏の名残が色濃く残る高温下での過酷なレースという印象が強かったのですが、今回は朝から肌寒く、途中からは冷たい雨が降り続いて体力が消耗していく厳しいレース展開となりました。

このような消耗戦の中で勝ち抜いたのは、やはり日本を代表するトップアスリートたちでした。日本選手権部門では高濱邦晃選手が男子で3連覇。女子では田中敬子選手が2012年からなんと4連覇。そして、国内最長距離を誇る国際Aタイプ男子では、シドニー五輪日本代表でトライアスロンの第一人者である西内洋行選手が3連覇を達成しました。

これらの選手に共通するのは、炭水化物(糖質)に対する意識の高さです。高濱選手は栄養面の知識が深く「こんな小さなお餅にご飯1杯分の炭水化物が詰まっているのがすごいと思う」と語ってくれました。女子4連覇の田中選手はレース当日の朝には必ずお餅を食べるらしく、海外のレースでも日持ちするお餅(包装餅)を必ず持って行くのだそうです。

将来を担う子供たちのからだづくりにお餅を！

本戦前日の9月5日(土)には、小中学生を対象とした「佐渡ジュニアトライアスロン大会」が催され、地元の佐渡をはじめ新潟県内や遠くは大阪や秋田からも子供たちがエントリーしました。

レース後に焼き餅を試食してくれた子供たちからは「醤油がいい匂いで幾つでも食べられる」「子供はみんな、きな粉餅が大好き。きな粉にはお餅が一番合うと思うよ」「給食でお餅が出たら嬉しい」など素直な感想が返ってきました。

応援に訪れていたお母さんから話を聞くと「子供が部活動でいつもお腹をすかせて帰ってくるので、夕ご飯が出来る前のつなぎにお餅を食べさせてます。これまでいろんなものを試してみたけれど、お餅は手軽で一番飽きない」とのこと。

また、展示パネルで国内産水稲もち米100%の印である全餅工のシンボルマークを知った主婦が「子供に安心なものを食べさせたいので、このマークがついてるかどうか今度確かめてみます」とのこと。お餅を知り尽くした全餅工による焼き餅のふるまいとあって「お餅の焼き方が絶妙。味付けも本当においしい」と好評でした。



5年連続協賛で「佐渡トライアスロンには“おもち”」が定着

全国餅工業協同組合が「佐渡国際トライアスロン」に協賛するのは今年で5年連続となり、レース参加者の間での認知度も益々高まっています。

例年どおり、次のようなPR活動を行いました。

◆9月5日(土)

開会式会場のアミューズメント佐渡にて、選手登録に訪れた参加者に切り餅セット(切り餅、リーフレット、ポケットティッシュ)を配布。開会式では全国餅工業協同組合の外立和夫専務理事が登壇しました。

ロビーには恒例の「おもち大明神」や各種パネルを設置。明日のレースの行方を占うおみくじをひいてもらい、みごと大吉の方には記念撮影をしてインスタント写真をプレゼントしました。

佐和田海水浴場(佐渡市)に隣接するメイン会場では、ジュニアトライアスロンに参加した子供たちや応援に訪れた家族に砂糖醤油で味付けした焼き餅を配布。長蛇の列が出来るほどの好評でした。

今年は新たに、お餅でのカーボローディングを推奨するマンガちらし「餅カーボ 必勝法！」を配布して、普及に努めました。それを読んだ子供が「こんどの運動会の1週間前からやってみるよ」と約束してくれました。

◆9月6日(日)

あいにくの雨模様の中、メイン会場の特設テントにて前日と同様に焼き餅を配布しました。時間が進むにつれて刻々と雨脚が激しくなる中で、参加した組合員の方々の奮闘もあり、午後6時頃に予定数をみごと配布完了しました。

また、国際Aタイプ男子の部には、組合員の加藤知愛選手(栴きむら食品)が出場し、13時間58分59秒のタイムでみごと完走しました。途中、バイク(自転車)では体が冷え切って体力を激しく消耗しましたが何とか持ち堪えることができ、フィニッシュゲートでは組合員の仲間達と感動のゴール。加藤選手の14時間にも及ぶレースを完走したスタミナ源はもちろん、お餅です。

◆9月7日(月)

大会翌日にはアミューズメント佐渡の大ホールにて表彰式と閉会式が行われました。全国餅工業協同組合からはスポンサー賞として切り餅一年分を2名の方にプレゼントする大じゃんけん大会を実施。会場を埋めた約1000名の参加者と白熱のジャンケンを行いました。

2020年の東京五輪まで残すところあと5年。お餅がスポーツにぴったりの食べ物であることをさらに多くの人々に浸透させ、将来の日本を担う子供たちの体力づくりにもお餅をたくさん食べて頂けるように継続的なプロモーションを積極的に展開していきます。

